

Chapter 6 Reading in a second language (pp.88-99) by William Grabe

1. Introduction

リーディングは、最も重要であるが、高い熟達度に到達するには最も難しい技能の一つである。

2. Different Purposes for Reading

■ 読み手はそれぞれ異なった目的を持って読解し、異なる過程で認知処理を行うため、L2 リーディングを統一した能力として扱うことは難しい。しかし、主題(main idea)の理解は、どの読みの目的においても基本となるため、最も重要な能力である。

■ 読みの目的の主なものは以下に挙げられる。

① 情報を探するため。

情報を探するために読むことは、情報を探すスキニングを伴う。情報を探す上で、意味理解は、必要となり、読み手はとても早い速度で読みを行う。

② 学ぶため。

対照的なものとして、学ぶための読みが挙げられる。主題だけでなく、詳細やテキスト内の情報のつながりを理解する必要があるため、認知過程は遅い速度(L1 で 175-200WPM、L2 でさらに遅い)で行われる。批判や評価のための読みは、さらに背景知識や読み手の感情などが必要となり、読みの速度はより遅くなる。

③ 基本的な理解(basic/general comprehension)のため。

読みの目的として最も多いのは、基本的な理解である。通常かなり流暢な読み手で 150-200WPM の速度である。この目的は、主題理解や補助文(supporting idea)の理解など、多くの読みの目的を含む。basic/general という語が用いられるが、語彙知識、速度、概要理解が必要となるため、流暢さをもって基本的な理解を行うことは、難しい。

general comprehension は多くの L2 学習者が目標としているが、教師は、限られた学習者の目標である、短い文の訳読などに時間を費やしてしまうため、生徒の目標との間にずれが生じる。

3. A Definition of Reading

■ 読みの定義として、以下の能力が挙げられる。

① 速く自動的な過程：ワーキングメモリ内の様々な情報は同時に活性化されることで、理解に結びつく。

② 相互過程：自動的処理と意識的処理、さらに高次においては、テキスト情報と背景知識の、2種類の相互作用がある。高次の相互作用は、情報が得られたか、適切な方略が用いられたかなどを確認するためにも必要となる。

③ 柔軟で方略的過程：読み手は読みの目的を達成しているか確認し、達成されていない場合は柔軟に、多様な処理活動を方略的に変化させることで、良い読み手となる。

④ 目的がある過程：前述したような、読みの目的以外にも、内容が読み続けるに値するほど興味深いか、現在のタスクを変えるとより目的につながるか、など身近な目的もある。

⑤ 言語的過程。読みは論理的思考の過程だという意見もあるが、それは L1 など流暢な場合のみに置いて言えることで、L2 の読みは、言語処理である。

4. How Reading Works: Individual Processes in Reading

- 流暢な読みは、低いレベルと高いレベルの処理が必要である。流暢な L1 の読み手は 1 秒に平均 4-5 語認識できる。また、語とその意味は多くの場合自動的につながる。構文と意味も低いレベルの処理に入る。構文中の、語順、主節と複文、その関係性についての情報も用いられ、自動的に行われる。
- 高いレベルの処理は、節レベルの意味のつながりから、テキストの表象を行う。テキストの概要から、自身の意見や経験と関連づけ、状況モデルを構築する。
- 良い読み手は、高次・低次 2 つのレベルから理解し、読み手の知識、テキストの推測と関連させ、さらに読みの目的にそっているか、リーディングをモニターすることができる。

5. Social Factors Influencing Reading

- 読みを学ぶことは、個人の活動であるという印象があるが、社会的要因も、読みの発達に大きく影響する。初期の読み手は、家庭での影響が最も大きい。仲間や、生徒・教師間の関係も影響があるが、最も重要な役割は、教育機関である。学校機関、図書館設備、教師の訓練などが、生徒の発達に影響する。
- L2 の場合は、2 つの言語、文化的違い、異なる動機など様々な要因あがり、また短期間でリーディング力をつけなければいけないということもあり、影響が複雑であるが、社会状況は、読みの発達に大きな影響を与えている。

6. Specific L2 Reading Issues

- L2 リーディングの目的、過程、読解には、L1 とは異なる特有の問題点がある。
 - ① 限られた言語知識
L1 の読み手は一般的に 6000 語の語彙を習得し、基本的な文法知識をもって、読む学習を行うが、L2 の読み手は、言語の基礎がないまま読みの学習を始める。また、話ことばの知識もほとんどないまま、読みを始める。
 - ② L2 熟達度、または L1 読解力の L2 読解向上への必要性
L2 読解力向上が影響を受けるものは、L2 言語知識か、または L1 リーディング技能かは、論点となっていて、**language threshold hypothesis** と呼ばれる。ある一定のレベルまでは、語彙や文構造の L2 知識が、読解力向上の要となるが、語認識や構造解析が自動化されると、メタ認知などの方略使用や、効率的に読む技能である L1 読解力が重要となる。
 - ③ より一般的な L1 技能の転移
ワーキングメモリーや音声処理などの L1 の認知的読みの技能を、L2 の読みに転移させる。特に正字法については、**orthographic depth hypothesis** と呼ばれ、読み手は正字法によって、語彙認識の過程が異なるとされる。
 - ④ L2 読み手特異の方略使用
心内の訳読や同族語、バイリンガル辞書の使用などは、L2 特異で有効な方略であるが、特にバイリンガル辞書については、使用法の指導を受けることで有効なである。
 - ⑤ テキスト構造の違い

L1 と L2 の一般的なテキスト構造が異なる場合、テキストがどのように構成され、情報が統合されているか、より明示的な支持と、そのテキスト形式を読む練習が必要となる。

⑥ L2 で読む機会の少なさ

流暢な読み手になるには、多読が唯一の方法であるが、多くの教師、カリキュラム、教材は、読む量の少なさが与える影響を認識していない。解決策は単純であるが、実施は困難である。

- 読解力向上に影響する要因は複雑であるが、その原因の一つが L1 の転移である。転移については、以下 3 点に一般化される。1. 転移の多くは L2 読解の妨げとなる。 2. 正の転移が起こる状況、いつ転移が起こるかについての研究結果が様々である。 3. L2 読解力は読み手の 2 元的言語処理から成る。
- 第 2 に、多読と読解力向上のつながりについての研究は少なく、読み手の読む量を増やすことは指導の目標となることが少なし。しかし、限られた研究の中でも、多読は読解力向上に効果があるとされている。
- 第 3 に、語彙習得について、語彙は読解で最も重要な要素とされるが、語彙指導は多くの L2 指導で重視されていない。

7. Reading Instruction

- L1 と L2 の読みの研究から、リーディング指導について以下の示唆が挙げられる。
 - ✓ リーディング力向上には、語彙と構文知識が必要となる。(Points 1,2)
 - ✓ 学問的テキスト学習者が不慣れなテキストに慣れさせることが重要である。(Points 3,4)
 - ✓ 特に学問的テキストにおいて、方略的な読み手を育成することが必要である。(Point 5)
 - ✓ 読みの効率性、適度な読みの速度、自動化、L2 テキストの多読が必要である。(Points 6, 7)
 - ✓ 学問分野において、リーディングとライティング指導を統合されることが重要である。(Point 8)
 - ✓ 読解力向上に効果的な内容中心の指導の開発と、学習者興味を引く内容を読ませる動機づけが必要である。(Points 9, 10)

8. Further Issues for Consideration

- リーディングに関する、さらなる論点として、「L2 測定」の研究、「リーディングとライティングの関係性」が挙げられる。「神経言語学」は、L2 の読み手に関する研究が少ない。「子供の L2 リーディング力向上」については、過去 10 年で多く研究されてきたが、その多くが L2 への L1 転移である。PC 画面の読解、「新しいメディアでの読み」(e-mail, Facebook など)について、その過程と方略は研究の中心となっていくであろうが、実証研究が不足している。
- 「教師教育」については過去 5 年間で L1 で重視されているが、L2 読解では重視されていない。リーディングテキストの「真正性」、「動機」についても研究が必要である。

9. Conclusion

L2 リーディングに影響与える要因は複雑であるにもかかわらず、多くの L1, L2 学習者が良い読み手であるため、リーディング指導の効果を認めつつ、さらなる向上への方法を探索しなければならない。